

平成29年度 第1回
下水道若手職員によるネットワーク(下水道場)
報告書

国土交通省水管理・国土保全局 下水道部

平成29年度の下水道場について

第1回下水道場における「神田宣言」(H24.9.10)を受けて、これまでに延べ14回の下水道場を開催。「他都市・団体との交流」、「他分野からの刺激」、「先駆者からの学び」、「体験」などを柱に、若手職員の研磨の場として活動の幅を拡大してきた。

平成29年度は、現在全国15箇所(H29.7時点)で開催されている「地方版下水道場」を今後さらに多くの地方公共団体に広めていくために主な開催主体である都道府県の職員や参加したいと思う市町村の職員の皆様に下水道場開催に向けたテーマ立案・実施における課題等を議論してもらい、実開催を後押しすることを目的とした。



平成29年度第1回の開催概要

テーマ「私たちの地方版下水道場を考える」

開催場所: 平成29年8月2日(水) 13時～17時

開催場所: 東京ビッグサイト 会議棟1F(下水道展'17東京会場)

参加者数: 84名

プログラム

1. 下水道場について(主旨・概要説明)
国土交通省下水道部下水道企画課

八幡 一憲

2. 地方版下水道場の事例紹介・質疑応答
北海道建設部まちづくり局都市環境課
神奈川県県土整備局河川下水道部下水道課
愛知県建設部下水道課
福岡県建築都市部下水道課

西屋 邦亮 氏
興津 俊太 氏
水谷 道大 氏
宮園 直美 氏

3. グループディスカッション
 - (1) 班別議論
「私たちのまちで地方版下水道場を開催するとしたら」
 - (2) 班別議論
「グループ毎のテーマ・プログラムを考える」
 - (3) 他の班との意見交換会
 - (4) 発表



地方版下水道場の紹介

- 「北の下水道場」(北海道)
- 「かながわ かもめ下水道ネットワーク」(神奈川県)
- 「あいち心の浄化センター」(愛知県)
- 「とびうめ下水道場」(福岡県)

地方版下水道場を開催したことのある道県の職員の皆様に、開催内容の紹介、開催した理由、苦労話など開催経験者ならではのお話をして頂いた。また、会場からの質疑応答にも答えて頂いた。



ディスカッション①「私たちのまちで地方版下水道場を開催するとしたら」

自分たちのまちで地方版下水道場を開催することを前提にし、自分たちのまちの課題、地方版下水道場の開催目的を発表し合い、意見交換。

ディスカッション②「グループ毎のテーマ・プログラムを考える」

ディスカッション①で出た意見を参考にし、各グループを一つの団体とした時に、地方版下水道場開催の「目的」を設定し、どのような「テーマ」及び「プログラム」で実施すれば効果的な地方版下水道場を開催することが出来るのかを議論。



15班に分かれて議論



抱えている課題等の情報交換

発表（地方版下水道場の開催案）

1班

「広報戦略～『下水道』を口ずさむ未来～」

目的

- ・他都市の広報戦略、PR方法に関する情報交換
- ・広報活動による住民への理解度UP
- ・他都市との共催でのイベント活動

プログラム

- ・情報交換、事例紹介
- ・広報活動のプロによる講習
- ・グループディスカッション
- ・発表

2班

「下水道100年安心プラン」

目的

- ・縦のつながり(ベテランから若手への技術・知識継承)
- ・横のつながり(若手間・自治体間の情報共有)
- ・企画力・実行力の向上

プログラム

- ・処理場・ポンプ場の施設見学(維持管理の実態を学ぶ)
- ・ストックマネジメント、PPP/PFI、下水道経営に関する勉強会
- ・市民に向けた下水道PRの企画・プレゼン→市民参加型のコンペ開催

発表（地方版下水道場の開催案）

3班

「困った時はお互い様～なんでも発表会～」

目的

- ・下水道経験の浅い職員のネットワーク作り
- ・他の自治体の取組を知る
- ・情報共有

プログラム

- ・事例発表会
- ・意見交換会
- ・飲み会
- ・2次会（水の天使の講評）

4班

「下水道接続率の向上へむけた取組について」

目的

- ・他自治体とのネットワークづくり（問題意識共有）
- ・若手職員ならではのPR方法の確立（SNS活用、マニュアルの作成）

プログラム

- ・先進事例の紹介（近隣で実施している自治体から講師派遣）
- ・グループディスカッション
- ・発表、講評
- ・懇親会

発表（地方版下水道場の開催案）

5班

「下水道事業のPR活動について」

目的

- ・各自治体のPRに関する取組を知る
- ・効果的な事業のPR方法を知る
- ・若手職員の技術向上

プログラム

- ・広報活動に関する講演（大手企業の広報担当者）
- ・下水道の広報活動に関する事例紹介（先進自治体 例：京都市）
- ・グループディスカッション「効果的なPR方法について」
- ・講評（大手企業の広報担当者、水の天使）

6班

「もっと知りたい下水道」

目的

- ・背景：下水道の利用促進（利用が進まない）
- ・効率的・効果的な広報（時間と費用と労力）

プログラム

- ・広報活動の共同実施（下水道ブース、ホームページ、台帳）
- ・ゆるキャラ作成
- ・意見交換会

発表（地方版下水道場の開催案）

7班

「下水道事業の今後の運営について」

目的

- ・人口減少に伴う施設運営の効率化を目指す
- ・下水道事業の安定した業務継続のための技術継承を目指す

プログラム

- ・下水道協会、JSによる最新技術の講演
- ・国交省の広域化に関する事例紹介
- ・市町村による先進事例紹介
- ・グループディスカッション

8班

「見える下水道」

目的

- ・イメージアップ
- ・現代に合ったPR方法の模索
- ・下水道職員の共通認識を高める

プログラム

- ・PR事例紹介（成功・失敗）
- ・グループディスカッション（失敗→成功にするには？）
- ・現場見学会

発表（地方版下水道場の開催案）

9班

「下水道のPRについて」

目的

- ・下水道事業等について、地域住民の方から理解を得る
- ・各自治体の課題や成功例の共有

プログラム

- ・現場（科学館、施行現場、処理場 等）の見学
- ・講師を招いて勉強会を行う（企業 等）
- ・グループディスカッション

10班

「下水道の大切さを広めるために・・・」

目的

- ・各自治体で水洗化率100%を目指す！
- ・市民の下水道に対する重要性の理解・認知の向上！
- ・職員の技術力・知識の向上！

プログラム

- ・部門（管路・施設など）ごとで集まり、意見交換し、その後他分野を含めて意見の共有
- ・下水道のPR方法を考える
- ・PRを実施する

発表（地方版下水道場の開催案）

11班

「ストマネ計画策定100%」

目的

- ・策定済みの自治体が未策定の自治体にノウハウを提供
- ・策定率の向上
- ・策定に当たっての課題共有、意見交換

プログラム

- ・国交省担当者による基調講演
- ・直営で策定した自治体職員による事例発表
- ・モデルケースによる計画策定
- ・懇親会

12班

「効果的で持続可能な下水道を考える」

目的

- ・下水道事業が直面する課題を共有し、改善策について考える
- ・新しい技術等の情報共有
- ・自治体の枠を超えたネットワークの構築

プログラム

- ・先進事例の紹介
- ・ディスカッション
- ・（事前課題を参加者から回収しておく）

発表（地方版下水道場の開催案）

13班

「下水道事業効果の見える化」

目的

- ・住民に対しての効果的なPR方法の検討
 - 改築・更新等、効果が見えにくい分野について
 - メディアをどう使っていくか

プログラム

- ・基調講演「効果的な広報について」メディア関係者
- ・グループディスカッション「下水道事業効果の見える化」
- ・現場見学（先進的な下水処理場、老朽化した下水処理場）

14班

「みんなの下水道カフェ」

目的

- ・職種の垣根を越えた若手職員の交流

プログラム

- ・基調講演
- ・自己紹介、1分間スピーチ ー班分け（事・技）
- ・ワールド・カフェ（コーヒー、お菓子付）
- ・講評

発表（地方版下水道場の開催案）

15班

「下水道を身近な存在として知ってもらうには？」

目的

- ・下水道を身近な存在として知ってもらうには何が出来るか考える

プログラム

- ・先進事例の紹介
- ・「下水道」を知るために、自分の仕事について紹介・説明し勉強する
- ・下水道を知ってもらうために何が出来るかを考える



2017年度ミス日本・水の天使
宮崎あずさ様も駆けつけ、議論に参加

代表的な意見・要望・感想

- 他の自治体の話を聞いたことで、今後の下水道場へ活かしたい。
- 全国から下水道に携わる若手職員の方々と交流できる良い機会だったと思う。今後このネットワークを活かす機会があると、今回の下水道場に参加して良かったと改めて感じるができると思う。
- 班の人としかほとんど会話する機会がなかったので、もう少し多くの人と話ができるといいと思いました。
- 広報について触れる班が多かったのは興味深かった。
- 8月に地方版の道場に参加するので、各都市の考えを持ち帰ります。
- 全国の自治体さんと意見交換が出来て本当に良かった。立場の異なる意見も多く、非常に参考になった。
- 普段は接することのない他都道府県・市町村の方々と意見を交換することができ、非常に有意義であった。
- 横のつながりを持てる少ない機会なのでとてもよい研修だった。下水道場という大規模なグループとして、全体でイベント(一般の方々もまじえた)を開催できたらしいなと思った。

次回開催に向けて

次回の下水道場では、実際に地方版下水道場を開催したうえでの課題や情報の共有、意見交換を行い、さらに地方版下水道場を全国に広げていき、レベルアップしていくための活動内容を考えております。

